

モデル事業名	地域力発揮による二地域居住促進モデル構築事業
活動団体名	精進湖活性化協議会
ホームページ	http:// (活動団体のHPのアドレス) 作成中 (2月中旬より公開予定)
所属/ 担当者名	精進湖活性化協議会事務局 (富士河口湖町役場企画課内) 渡辺勝保
連絡先	(電話番号) 0555-72-1129 (Eメールアドレス) kikaku@town.fujikawaguchiko.lg.jp
活動地域	山梨県 南都留郡 富士河口湖町 精進湖居村 (いむら) 地区

● 活動地域の概要

立地 : 山梨県 富士北麓地域に位置する地域
 資源 : 富士山、富士五湖 (河口湖、西湖、精進湖、本栖湖を町内に有する)
 人口 : 居村地区 (357人 (1998年) ⇒ 297人 (2009年))、 富士河口湖町 25,913人
 空き家 : 居村地区 20件/45件
 交通手段 : 河口湖からバス、マイカー (河口湖までは、高速バス、富士急行で可能)
 高齢化率 : 18.4% (2005年) ⇒ 29.8% (2030年) ※数値は富士河口湖町の予測値



【位置図】



【居村地区の空き家状況 (黄・赤=空き家)】



【徐々に再生が難しくなる空き家】

● 活動地域の課題

精進湖居村地域は、甲府から富士宮に至る街道筋に当たるため古くから栄え、また明治期には英国人ホイットワーズ氏によって「発見」・開発された「富士五湖 観光」発祥の地としてブランド化されていた。しかし昭和以降、同地区の人口減少がスタートし、現在は人口300人以下 (10年で15%程度減少) にまで減少している。また中でも空き家は地域の住居が密集する地域に20件以上が一箇所に集中して存在しており、交流の促進、二地域居住・移住の実現が集落の維持に不可欠となっていた。

そこで地区では平成19年度に、地区の住民、商工業者、行政を含め「精進湖活性化協議会」を発足。地域ブランドの再生を含めた空き家の利活用の検討を開始した。

● 活動の内容

- 平成20年度 (協議会 8回 開催、 先進事例視察 1回)
平成20年度の主な活動は、毎月一度開催される協議会、及び先進事例の視察、さらにプロモニター会を開催した。
協議会は、メンバー16名とアドバイザーを交える形で運営され、居村の現状、当事者の意見集約、今後の方向性についての話し合いが行われた。
先進事例視察会では、同種の課題を抱える先進事例として空き家の宿泊所化、空き家古民家の利活用を図り地域の活性化に成果の出ている地域に出向き、意見交換をおこなった。
プロモニター会では、協議会内部で決定された方針について「食・住・金融・歴史・二地域居住」の専門家をアドバイザーとして招聘し、意見交換を行った。
- 平成21年度 (協議会 12回 開催、 空き家改修、モニターツアー実施 (20名))
平成21年度の主な活動は、空き家の改修とモニターツアーの実施、協議会開催を中核として、活動が行われた。
空き家改修については、前年度に決定されたコンセプト「The Shouji」を元に二軒の空き家を選出し、協議会内でアイデアを出し合いコンセプトに応じた改修を行った。
改修が終了した10月からは公募によるモニターの受付を開始。11月、12月で合計20名のモニターを受け付けた。また協議会では、モニターツアーに提供されるコンセプトに応じた体験プログラム (食・家・道) が策定された。

● 活動の成果

・平成20年度 「利用方針の決定 と コンセプトの明確化」

第一の成果は空き家の利活用の様式＝「会員制による高頻度利用」と設定した点である。本事業において参考とした先行事例「荒蒔邸」（茨城県常陸太田市）では、空き家の利用形態として「会員制での利用」を採用し成功している。精進湖居村地域においても同モデルを踏襲することで、二地域居住が難しい都市住民を会員化することで、徐々に地域に溶け込んでもらい、将来的な二地域居住、定住へと移行してもらうよう試みる事が決定した。

第二の成果は精進湖居村地域のコンセプトを大正末期から昭和初期の精進湖のイメージ「THE SHOUJI」に決定した点である。本事業では、9回の協議会において「地域の誇り」をテーマとして、今後の空き家利活用のコンセプトを討議した。この結果、精進湖地域における黄金期は「精進湖が一流の観光地として輝いた大正末から昭和初期」であること、さらに各部会（食、自然、歴史文化）の資源探索で数多くの有効資源が発見され、空き家体験ツアーの体験プログラムとして活用する事が決定された。

・平成21年度

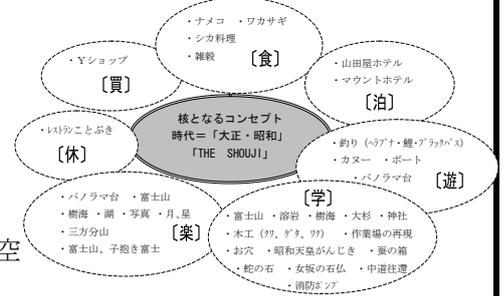
「体験者向けプログラムの策定 と モニターツアーの実施」

第一の成果は、体験者向けプログラムが生み出された点にある。空き家体験者に、上記コンセプト「The Shouji」に即した体験を提供する目的でプログラム策定に努めた。この結果、「食」分野において料理体験メニューとして屋内の囲炉裏で協議会メンバーと調理する「精進季節の炉端焼き体験」、及び地域の精進湖らしいスポットを解説付きの地図で回る「精進湖フットパス」が整備された。

第二の成果は上記プログラムを含めた 空き家宿泊体験にモニター20名を招待した点である。モニター会は協議会によって改修された空き家2軒（古民家と元駄菓子屋）で10月後半から12月初旬にかけて行われた。この結果、20名のモニターから幅広いアンケートを回収し、今後に向けた課題が明らかになった。



【協議会の様子】



【コンセプトの中身】



【フットパス（左）、料理体験（右）】

● 今後の課題及び展望

・課題 「コンセプトを伝えるプログラムの不足、と 低い認知度」

第一の課題はコンセプトを伝えるプログラムの不足である。今回のモニターツアーでは、二つのプログラムを活用し、協議会メンバーとの交流による「The Shouji」の伝播を試みた。この結果、モニターからは「他のスポットの紹介」、「精進湖全体の散策に必要な移動手段確保」、「他の空き家案内」、「メンバーとのより濃密なコミュニケーション」が望まれている事が判明した。

第二の課題は低い認知度である。今回のプロジェクトは、「高頻度の会員制」、「The Shouji」の二点を中核としていたが、利用者がシステム、コンセプトに理解をして訪れるケースは少なかった。特に利用システムについては、これまでの空き家利用システムとは異なることから、なんらかの媒体を通じての継続的な説明が必要になる点が課題として確認された。

・展望 「2010年度における本格展開にむけた プログラム、受入れオペレーションの深化 と Web活用」

2010年度には、2009年度のモニターツアーを請けて、空き家体験者の受入れを本格的に行う。予定では、4月～11月に合計100名の受入れを予定している。このために2010年度は以下二施策を展開する予定である。

第一の施策は、プログラム、受入れオペレーションの深化である。特に「The Shouji」を体験する2施設については、古民家、駄菓子屋にそれぞれ必要な空間演出を行うこと、プログラムについては移動に必要な見所ポイントを列挙すること、移動手段として自転車を確保すること、空き家を案内できるプログラムを整備することなどが確認されている。

第二の施策は、Webの活用である。上記課題にも述べたとおり、利用システム 及び コンセプトについてはある程度の継続的な説明が必要であると考えられる。このため精進湖活性化協議会では、継続的な情報発信のプラットフォームとして低投資、低コストで可能なブログの活用が決定された。また精進湖居村地区は歴史の町並みを現在に残している地域であることから地域住民（空き家所有者）と協議を行い歴史の町並み保存を含めた有効利用の体系を形成することが大切であるとのことから、協議会メンバーだけでなく広く地域の人の参画をもとめることも実施する。



専門講師を交えてのプログラム作成



改修後の生活体験施設（渡邊邸）



改修後の生活体験施設（小林商店）